

## 軽井沢の庭

12年間過ごした軽井沢太郎山山荘は、敷地続きに谷川があり、森林に囲まれた場所に栗の枯れ枝で作ったデッキが、自然環境に溶け込み谷川のせせらぎや小鳥のさえずりを聞きながら、食事やティータイムは心が癒されていました。太郎山山荘は満足していたのですが、車の苦手な私には坂道を冬車で登るのが厳しいので、軽井沢INと新幹線軽井沢駅から近い、南が丘に新土地を確保しました。

新しい庭造りの構想は、林の中を歩いていると新しい花を発見する感動の“**ミニ植物園**”をイメージしました。その為には、太郎山山荘で育ててきた樹木と山野草を新敷地に移設し、これら既存の樹と花に新しく調達した珍しい背の高い樹木と宿根草をバランス良く植え込むことで調和が取れるように計りました。

併せて、従来の「家の中の庭」の慣例から自然環境の提言を求めて「林の中の住居」を試みました。コンセプトは、何処の部屋からでも、花と樹が見えるように、建物の周辺に花と樹を植え込みました。

南が丘の新敷地を購入した時、敷地内に築15年の家屋とモミや唐松の大木が100本近くあったのですが、家屋は解体し、屋敷の守護神として大木のニラ、コブシ、栗など6本だけ残して全て伐採し新地（荒地）にして、そこに新しい住宅と造園を創ることにしました。

太郎山では、12年間育ててきた樹木約170株×530本を昨年11月にこの新地（荒地）に移設し仮植えして、土中の氷が溶けるのを待って4月上旬に太郎山から移設した樹木を中心に、購入した珍しい背の高い樹木を配置して植栽しながら、庭創りを目指したのです。



<お気に入りのデッキ>



<太郎山の樹木の掘起し>



<伐採後の新地>

太郎山山荘から移設した樹木の中には、京都の名庭から実生（当時3cm）を頂いてきて育てた桜（転勤毎に移設/紅葉が抜群！）、セリで落札した樹齢130年のミツバツツジ、山採りのサワフタギ、ガマズミ、ツリバナマユミ、イグリッシュガーデン（茅野市）から購入してきたゴールデンアカシヤ、軽井沢山桜、エクスパリュウ、郷里三日月町（兵庫県佐用郡）から取寄せたミツバツツジなどを活かして、造園家と相談しながら自然の山林をイメージしました。

新しく調達した樹木には、軽井沢の古いお屋敷から大木（高さ15mで私の両手が届かない樹齢約170年）の桜を我が家のメインツリーとして、南側デッキ近くに夏の日除けを兼ね植え込みました。

併せて、欧州産の珍種イエローバード（黄色のマグノリヤ/高さ8mで1ヶ月新しい花が咲いている）、北米産のメタセコイヤ（高さ12mで葉がゴールド）、人気上昇中のジュンベリー（高さ6m×15本の株立）などの他に、葉がひらひら風でなびくチョコレートカラーのクリームソッキング×2本（高さ5m）、上品で淡いグリーンプリマトンゴールド（高さ5m/紅葉が美しい）、ピンクのヤマボウシ/サトミ（高さ5m）、目隠し用に高さ3m前後の大木のシャクナゲ×10本、涼しさと呼ぶ夏場1ヶ月咲いているアナベル（花が白から緑に変化する）×約20本などが加わり、樹木の高低バランスをとりました。



<メインツリーの桜>



<珍種イエローバード>



<メタセコイヤ>



<満開のジュンベリー>



<クリムソンキング>



<プリマトンゴールド>

敷地の南面舗装道路脇には、浅間石を積みそこに西洋岩南天、山吹、あせび、ドウザンツツジ、雪柳、など7種類の木で乱垣を作り冬場も常緑で目隠しをしています。ちなみに、我が家はカーテンを設けず、採光を考慮しています。東南の角に浅間石で門柱を作り、門柱から玄関口に向けて、敷地の東端沿いに車道を設け途中が車庫です。

門柱から直ぐに、車庫手前を通って玄関口に通ずる歩道を設け、歩道に枕木と浅間石の粒砂利を敷き込めて庭のレイアウトの位置決めをしてから、日当りを好む樹木、東西の目隠しになる常緑樹、リビングから観える植栽を進めて行く。



<7種類の乱垣>



<最初に位置決した歩道>



<玄関口に通ずる歩道の入口>

一方太郎山山荘では、家内がクルスマスローズ、キスゲ、サラシナショウマ、フロックス、ルピナス、白色ホトトギス、黄花片栗、ギボシ、フウロウ、キョウカノコ、ハタザオなどの草花、私が珍種アツモリ草をはじめクロユリ、イワカガミ、コマグサ、イチヤクソウ、シラネアオイ、ポーランドから持ち帰ったキクニガナ、イワウチワ、一輪草、松虫草、リンドウ、マイズルソウなど約100種の高山植物、他に林と苔の庭として林の中にヤマシャクヤク、エンレイソウ、ソバナ、ウバユリなどを育てていたのです。



<珍種アツモリ草>



<クロユリ>



<イワカガミ>



<コマグサ>



<イチヤクソウ>



<シラネアオイ>



<ポーランド産のキクニガナ>



<イワウチワ>



<一輪草>



<松虫草>



<ヤマシャクヤク>



<ウバユリ>

また、太郎山山荘の敷地内には、桜草、ギンラン、フシグロセンノウ、九輪草、ソバナ、トンボ草、ユキササ、毒花のトリカブトなどが群落していましたので、これらの花達を新敷地の南が丘に移植しましたが、全株が根付き花を咲かせています。



<桜草>



<フシグロセンノウ>



<九輪草>



<トリカブト>

これらの山野草約 50 種と高山植物約 100 種を、4 人の作業者が終日掛けて掘起し、小型トラックで 8 回太郎山山荘から南が丘の新敷地に移設し、新たに宿根草 1600 株（約 130 種）を小淵沢の専門苗会社から購入し、新旧の草花を 20 人工掛けてバランス良く植え込みました。お蔭様で、既存の山野草と高山植物や新たに取寄せた宿根草が恵みの梅雨を経て 97% 根付きました。これらの花は、雪シーズン以外 1 年を通して咲いています。

新敷地内の造園は、車道に沿って東側に紅葉が鮮やかなニシキギで目隠しをして、足元にクガイソウ、ファスティネイション、ピンカミールなどの宿根草を植え込みました。

家屋の裏側（北側のセミナーハウス側）は、2 F 浴室の目隠しの背高い桜、ピンクの花を付けるヤブデマリ、珍しいチョコレート色と淡いグリーンのノウルエーカエデ、山桜の株立、香り豊かなワイルドストロベリー、リグラリア リトルロケット、ホスター アクロディーテ、リグラリヤ リトルランタンノなどの宿根草、天麩羅に珍味なコシアブラ、タラの芽、蒨、ミョウガなどで、山菜が採れるように植え込みました。



<東側の目隠しのニシキギ>



<車道に沿った宿根草>



<コシアブラ>

リビングの西側は、隣の建物が接近しているので、常葉のコメツガ×9本とシャクナゲとジュンベリーやニチイを2列で目隠しを施し、山野草はククニガナ、日光キスゲ、ソバナ、エンレイソウ、サラシナキョウマ、ギボシ、ウバユリなどと苔で構成しました。北西のコーナーには、太郎山山荘で実を付けていたチョウセンボミシ（赤実）とアケビ（薄紫実）を支える栗の枯れ枝の棚を移設しましたから、2、3年後に実を付けるのが楽しみです。



<北側空地の宿根草>



<苔と山野草>



<アケビなどの棚>

家屋の正面は、モリス、カレックス パナナボードなど宿根草で花物を多く植え柔らかい味を出し、庭園から自由に入り出出来る階段を南面のウッドデッキに設置し、小鳥とリスの餌台を設け、ウッドデッキと玄関を挟んで青森県九戸から取寄せた石臼をつくばいに見立て、古瓦を工夫した手造りで和の小庭を創造しました。



<ウッドデッキ前の宿根草>



<餌台>



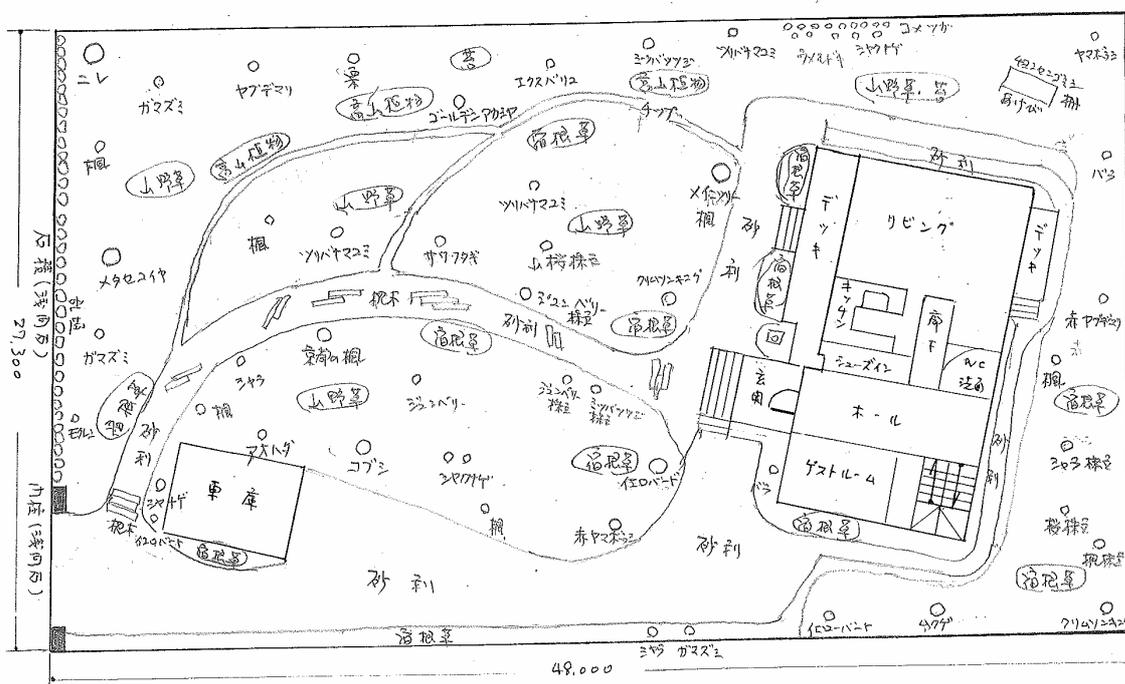
<石臼を見立てたつくばい>

林の中のミニ植物園は、北南（幅 27m × 長さ 35m）を長さ方向に3等分に分け、西側の木陰を利した私の高山植物と苔、中央と東側に家内の既存のクリスマスローズなど山野草と購入した宿根草でレイアウトしました。

道は、東側に車道幅 5 mを門柱から家屋迄設け、浅間石の粒砂利を敷きました。庭中央の歩道は、歩道幅 4 mに枕木を点在させ水はけの良い浅間石の粒砂利を敷きました。私の高山植物のエリアーには、細い歩道（幅 1 m）を設け、そこにチップ（木屑）を敷きソフトな歩きの出来るように配慮をしています。

また、当初購入した土地から、既存 FL から高さ 1500 mm盛土し（ダンプ数百台）、南面の舗装道路（FL）から 1800 mm高くして水はけの配慮と建物から南面の舗装道路に向って 800 mmのスロープを儲け立体感をもたらせました。

## 檜林印敷地レイアウト



### <敷地内のレイアウト>

PS: 本図は、+89% (または 100%) に拡大してご覧下さい。

私の領域には、太郎山山荘の花を中心として、購入した宿根草を一切使わず高山植物と山野草に絞り込みました。そして、太郎山山荘の既存高山植物の他に、新敷地内に生存していた瑠璃草を生かしました。敷地内で、ブルーの瑠璃草の群落に遭遇した時は大きな感動を覚えました。瑠璃草は、工事期間中敷地内が荒らされるので、太郎山に仮植えて、太郎山の山野草の移設時に合わせました。昔は、瑠璃草が軽井沢に沢山群生していたようですが、現在は大きなお屋敷に時々見つける程度で、絶滅危惧種のような貴重な花で、大切に株を増やしたいと考えています。この他に、新敷地内で見つけたギンラン、ヤマユリ、ツルリンドウ、教え子からのプレゼントの大好きなササユリや指導先役員から頂いたヒメサユリ (福島) などに加えて、プロの作業者の手を借りずして、自分独りで植え込みました。ササユリは、関西以西に群生し、これまた入手が難しくなり、私の経験では関東の根付率 40%前後と難しいのですが、幸いにして 80%近く根付き、綺麗な大輪を咲かせました。ジャム加工に使用されている野苺が、庭のあちこちで群生し、生命力が強く根引きに大奮闘しています。



<絶滅寸前の瑠璃草>



<大好きなササユリ>



<野いちご>

中央の歩道を挟んで、ホスタ レッドオクトーバー、サラシナショウマピンクパイクなどの宿根草と太郎山山荘から掘起してきた山野草を中心に構成しました。

新しく購入した宿根草は、家内の持分（領域）で珍しい花が多く、花の名前が分かりません。そこで、夫々の宿根草に名札を半日掛けて、家内と相談しながら取り付けました。宿根草が植わっていたポットの直径が70～100mmと苗が小さいから、3年後に立派な茎となり、沢山の花を咲かせ理想のミニ植物園になるでしょう。

ドイツのイエリット社から種を頂き育てたトロリウス、ファイヤークラッカー、美智子妃殿下のお好きな夕方に花を咲かせる可憐なユウスゲ、グリーンの中で1ヶ月近く咲き続ける真っ白なアナベルなどが人目を引きまします。

その他に、上品なデルフィニューム、ハーブでサラダに加えるピンク・白・赤のベルガモット、鮮やかなブルーのルリマツリモドキ、種がこぼれて沢山増えるハタザオの他に、沢山花を付ける鮮やかなブルーのルリマツリモドキ、夏バテを吹き飛ばすキャナケアプルプレア、色とりどりのギボシ、遠くからミツバチを呼ぶクナラティマセドニア、軽井沢のお庭で見られるフロックスに続いてデソミニューム、クナウティア マセドニカ、ディセントラノオウ、クナウティマセドニカ、日光キスゲなどが歩道を挟んで、毎日新しい花が10数箇所咲き、庭の探索に時間を忘れます。



<トロリウス>



<ユウスゲ>



<アナベル>



<デルフィニューム>



<ベルガモット>



<ハタザオ>



<キャナケアプルプレア>



<ギボシ>



<クナウティマセドニカ>

花は、旧山荘からの移設した高山植物100種に加え山野草50種及び新たに購入した130種（1600株）で凡そ300種前後が生存しており、雪の季節以外は年中何らかの花が咲いています。そして、3年後はこれらの花達が根付き大きく成長するでしょう。

夜は、歩道内と車道に照明灯が照り、濃霧の濃い軽井沢では幻想的です。そして、時々メインツリーにライトUPをします。歩道の中に、憩いの場所として、太郎山山荘の庭から移設した、栗の枯木で作ったベンチで散歩中の憩いの場所を設けました。日差しの強い日中は、木陰のベンチでお茶を頂くと寛ぎます。

また、高山植物の領域の中に指導先の社長から、贈呈を受けた銅製の鹿のつがいを楽しげに遊んでいます。



<歩道の照明灯>



<歩道の中に設けたベンチ>



<鹿の番い>

初夏には、ワイルドストロベリー、ジュンベリー、桑の実に続いて初秋のブルーベリー、ヤマボウシ、ナツハゼの実を高原ヨーグルトで清々しい庭園の空気の中で、朝食に頂くのも贅沢です。



<ワイルドストロベリー>



<ジュンベリー>



<ブルーベリー>



<ナツハゼ>

植え込み直後は、水ヤリに 1.5~2 時間要し、私達不在時は造園業者をお願いしていましたから、梅雨期は助かりました。樹や花の植え込み面積が、約 350 坪（畳 700 枚分）あります。最初の草引きのタイムスタディでは、20 日/人前後でしたが、要領が分り私 1 人で 12 日間掛りました。2 回目は、草が少なくなり 5 日間で完了しました。草引きをしているお尻側から、生命力逞しい草が出てきます。真夏は、草引を業者に依存しますが、草や宿根草の性格を知るためには、当面自分 1 人で実施しようと考えています。これも、横林理論の外作（業者） 内作（自分）を実践しています。

又、未体験ですが、秋になると宿根草やアナベルの枯れ枝を、来春の新芽に除去（草刈）しなければなりません。今年は、専門の業者に任し、草刈する宿根草のノウハウを吸収します。併せて、ドライフラワーの好きな家内にとって楽しみが増えるでしょう！ 5 月末の宿根草の植え込み時は、球根が植えられなかったので、今秋に水仙等を植え込みます。

7 月下旬、リビングの網戸に平家蛍が姿を現しました。近くに川が無いから蛍は頭中になかったのです。300m 程先に湿地帯があり、そこから遊びに来ているのだと軽く考えていたところ、連夜飛んで来た数が類計 20 匹近くになったので、21:00 頃庭に出て見ると暗闇の中でまばらに飛んでいました。平家蛍は源氏蛍に比べ、光が小さく飛んでいる姿を追いかけるのは見辛いのです。自宅（環 7 道路近くの練馬）のホテルはシーズンになると、同じ場所に必ず姿が一夜で 60~100 匹見ますが、南ヶ丘のホテルは見つからない夜もあります。これぞ、自然界のホテルです。何と、我が軽井沢の庭で自然のホテル鑑賞が出来るとは・・・感激ひとしおです。

軽井沢は東京と異なり蚊や虫が少ないので、南面のリビングの木製窓を全開（幅 5,500 mm × 高さ 2,400 mm の広い開口部）し、庭の緑と空気を部屋に取り入れて、庭感覚（庭の延長）でティータイムや食事をしています。リビングに、時々鬼ヤンマー、蝶々、カナブンが入って暫くして外に出ています。都会では味わえない自然の恵みに接しています。



<庭に遊びに来た平家蛍>



<花に黒あげは蝶々>



<リビング南面の窓を全開して庭を観る>

秋には、庭で沢山のガマズミとチョウセンゴミシが採れます。我が家はアルコールがダメなので、これらの実を氷砂糖で漬けます。ピンクのドリンクとして食前飲に頂きます。アケビは、甘く目白の好物として小鳥達がやってきます。軽井沢は、もみじの成長に適していて、桜の新緑と紅葉が格別です。是非、私達の独創で作った夢の “ **ミニ植物園** ” を視に起こし下さい。

2010年8月25日 横林寛昉